

大鹿HeatBeat

第 23 回 ~ 大鹿の人々 ~

紙谷 正 さん (85)



待望の秋蚕の繭だしの日を迎えました！今年は大鹿の食害に遭ってしまいました。春蚕も数を減らし夏蚕は飼えず、秋蚕はなんとか数を減らしつつも育てあげることができました。数日はさんで繭かきをしいよいよ出荷です。そして息つく暇もなく稲刈りが始まります。紙谷さんの田んぼは広いのです。約1週間かけて刈り入れをおこないます。実りの秋は待ってはいけません。移りゆく周りの環境を受け入れながら季節に従順に生きる姿が印象的な紙谷さんの後ろ姿です。

地元では柿三夜とも言われる十五夜今年は9月12日。先月の13夜は日本古来の仕来たりですがこの15夜はその昔、唐の時代に日本に伝わったといわれています。月の満ち欠けで大きく左右される生命の神秘。知人が出産を間近に控え病院に入院していたのですがやはり1日から産気づく妊婦さんが増えたといえます。11日はアメリカの同時多発テロから10年の節目、奇しくもその日を誕生日にもつ子供も多いといえます。さて柿三夜、この日はこの家の柿の実を採っても叱られることのない日でもあったといえます。



大鹿スケッチ

2011
長月②
前志満くみ
第27号

9月22日ディアターがオープンしました。映画 大鹿村騒動記が上映されて以来、日本各地からこの映画で大鹿村の存在を知ったというお客様が訪れています。原田芳雄さんが劇中で店主を務めていたディアターはやはり注目を集め、村民や訪れたお客様の希望もあり実際にお店としてこの度開店しました。かつては食堂として使われていた建物ですが10年あまり使われていなかったため掃除と改修作業を地元ボランティアと協力して行い店内のディスプレイも持ち寄りであしづつ映画の雰囲気を出していきました。現在、軽食やドリンクを頂けるほか撮影時の原田さんの写真の展示。また何よりも原田さんとも交流が深い大鹿歌舞伎看板村役者の面々と交流できるスペースとなっています。



美しいあさやけ



お気に入りの造形と色をもつオサバソウ



今年の登山は塩見岳(3047m)に日帰り〜♪ 少し早い山の紅葉と高山植物など、短い時間でしたが楽しんで参りました☆

最近「ピー子」とよばれています。本当の名前はペパン。フランス語で「種」という意味です。そう、僕は男の子です。雨の日はおとなしくお家のなかでごろごろと過ごしますが、晴れた日はよく外で日干しをしています。よく吠えています。甘えん坊ちゃんです。



いまだに近場の飯田の映画館では「大鹿村騒動記」が上映されていて原田さんパワーを見せつけられています。上映期間の延長×3くらいしているのでしょうか。今回は「大鹿村騒動記」の坂本順治監督のインタビューを掲載します。坂本順治監督は2008年大阪府堺市出身。生家の向いが東宝だったため幼いころから映画に親しまれます。監督デビューは2008年、赤井英和主演の『どついたるねん』。芸術選奨文部大臣新人賞、日本映画監督協会新人賞、ブルーリボン賞最優秀作品賞など数々の映画賞を受賞されています。■さて大鹿村騒動記の着想、構想は原田芳雄さんのお声掛けがきっかけとなったといえます。どのように作品になっていったのでしょうか。原田さんとは今までに映画を6本映画をつくっているのですが一度も主役をやって頂いたことがなくて、いつか監督と主役の関係で映画を作りたいと思っていました。内容をどういうものにしようか悩んでいるときに芳雄さんが大鹿村歌舞伎の写真集と観光マップそれから「村を渡った村芝居」という小説をもってきてくれたんです。で、「面白いですね」と言いながら観たこともないし、行ったこともない所で果たして、どんな芝居にすればいいのか、最初凄く不安で入口がみつからなかったです。結局、大鹿歌舞伎を題材にしても個人の物語をつくっていかなくてはならないわけで、例えば芳雄さんがどんな職業についているのか。どんな暮らしをしているのか。どんな性格なのか。どんな事件が起こるのかとか個人にまつわることを決めていかなければならないのに、大鹿村に行ったことのない状態でどういふところからききかけをつくらうか。最初が不安でした。

■不安を抱える中でその突破口となった出来事はなんだったのでしょうか。

一つは芳雄さんが歌舞伎の写真集を提示する時に大鹿歌舞伎には六千両という演目があつてその中の景清がやりたい、もう名指しだったんです。景清役、いわゆる村役者の役をやりたい。でその人が何日かに迫った歌舞伎の本番の前に事件が起きる。スムーズに村歌舞伎に没頭できない何か起きる。そういうのを設定するときに幼なじみと自分の奥さんが昔駆け落ちしてそれが一番大事な時に帰ってくる。しかもその奥さんが少し病気になる。という。回りに起きることを乗り越えてどのように歌舞伎の舞台に立つかというところから入っていったんです。でその奥さんは昔は道楽役をやっていて一緒に演じたことよって縁ができて結婚したという設定で歌舞伎を真ん中に置いていて少しづつ話の流れが見えてきました。つづきは大鹿スケッチ11月号に掲載します。